

# 2019 大会プレイバック

## <マスターズ甲子園2019・第16回大会> 2018 - 2019シリーズ第2幕



第16回大会では、各地方予選大会で代表権を得た、市立浦和(埼玉県代表)、岐阜県選抜(岐阜県代表)、利根商(群馬県代表)、PL学園(大阪府代表)、鹿児島実(鹿児島県代表)、宮古(岩手県代表)、東陵(宮城県代表)、鳥取育英(鳥取県代表)、郡山北工(福島県代表)、都城商(宮崎県代表)、出雲北陵(島根県代表)、鳴門(徳島県代表)、三原(兵庫県代表)、浦添商(沖縄県代表)、国府(愛知県代表)、久居(三重県代表)の計16チームが出場しました。このうち、利根商、三原、久居は現役高校野球部も甲子園非出場であり、高校創設以来、悲願の甲子園初出場となりました。

これらの出場16チームに計722人の選手がベンチ登録、このうち高校時代での甲子園非出場者は583人。最年少は18歳、最高齢は大垣南OB(岐阜県選抜)の北村桂一郎氏(86)が出場しました。また、PL学園高校には春夏通算6回の全国制覇を果たした中村順司氏、鹿児島実業高校には、今大会参加者の中で甲子園最多出場者である久保克之氏が、それぞれ総監督として出場。大会の選手宣誓は、PL学園高校野球部復活への思いを胸に同校OB(背番号1)の桑田真澄氏が務めました。

大会当日、PL学園高校、国府高校、久居高校は現役・OBのプラスバンドが内野席で演奏し、OBの雄姿を応援。また、PL学園同窓会組織「聖友会」約600人の応援団は、かつてアルプススタンドを彩った人文字を再現してスタンドを盛り上げました。

甲子園キャッチボールには、39都道府県より計420ペアが登録。「球友編」に72ペア、「親子編」に278ペア、「夫婦編」に58カップル、「ボランティア編」に10ペアが参加しました。大会2日目には、甲子園キャッチボール特別編として「ワールドマスターズゲームズ2021関西応援プログラム」を開催し、WMG2021関西への参画者(選手・ボランティア・応援や観戦)同士の8ペアが甲子園でキャッチボールを行うことでWMGにエールを送りました。

式典司会は、今年も高校野球選手権大会の初代学生会である山内佑利子氏が担当。夏の大会の開会式で入場行進のブラカード係を担当している市立西宮高校のOGが、当時ブラカードを持ってなかった同校のOGと共にブラカード先導役を務めました。その他、かつて甲子園に憧れた審判員を含む、計904人のスタッフ・ボランティアが、それぞれの思いを胸に、第16回大会の全プログラムを支えました。

